



会場に対する心配あれこれ

Q

料理やドリンクをサーブする際に
気をつけるべきことは？
ワンプレートやお弁当スタイルにすることで
効果を期待できるのでしょうか？



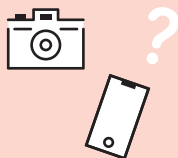
A

ビュッフェでは、ウイルスが付着しているかもしれない手で触ったトングをゲスト同士で使いまわすこと、会話等で飛沫が付着したかもしれない食品をシェアするという面で、個別の食事よりもリスクがより高まることが考えられます。どうしてもビュッフェを行う場合は、トングをひとり1本準備したり、ショーケースに入った食品を見て選んで頂き、マスクと手洗いをしたスタッフが、サーブしてお客様へお渡しする方法などでリスクを減らすことは可能と考えられます。

また、ワンプレートの提供にすることは、調理及びサービススタッフの接近や接触の機会を減らすという視点でリスクを減らすことは理論上できますが、ドリンクサービス等で接触をゼロにはできないため、効果は限局的ではないでしょうか。

Q

結婚式中、会場のスタッフが
ゲストのカメラやスマホを預かり
撮影することは危険ですか？



A

厚生労働省の発表によりますと、「感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、自らの手で周りの物に触れると感染者のウイルスが付きまします。未感染者がその部分に接触すると感染者のウイルスが未感染者の手に付着し、感染者に直接接しなくても感染します。」と提言しています。ゲストのカメラやスマホも同様ですので、食事を提供する披露宴の場では、避けておいたほうがよいでしょう。挙式の際やお支度の際は、スマホやカメラの消毒、受け渡しの前後での手の消毒を行い感染防止に務めるとよいでしょう。尚、機械類の消毒方法に関して、結婚式の現場では、アルコールウエットティッシュ等の使用の機会もあるかと思われましますが、アルコールやエタノール、研磨剤、界面活性剤といったものが含まれるウエットティッシュは、対指紋コートと行ったスマホ表面のコーティングを剥がしてガラス表面を劣化させたり、ゴムやプラスチックといったパーツを傷めたり、外装の印刷を消してしまう可能性も指摘されておりますので、使用に際しては製品の取扱説明書をよくご確認ください。

Q

会場入り口などでアルコール消毒を
呼びかけてはいますがどの程度効力があり、
何時間に一回行るのがベストなのでしょうか？

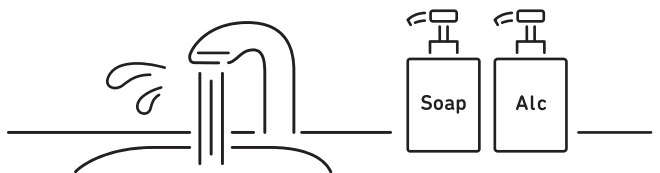
A

WHOの手指衛生ガイドラインによると、アルコールによる手指消毒を正しく行えば、ほとんどの微生物(ウイルスを含む)を除去できるとされています。

正しく行うことが重要であると共に、アルコール消毒は、それまでに手に付着していたウイルスを不活化する効果はあっても、揮発性が高く効果が持続しません。よって何時間に1回ではなく、汚れた可能性の度に都度、が原則です。

新型コロナウイルスだけではなく、他の病原体を近づけないという視点でも、ウイルスが手に付着する可能性がより高いと考えられる、不特定多数の人が触るものに触れた後、お手洗いの後、食事の前、など効果がより期待できる場面で円滑に行えるように、「玄関」、「披露宴会場入り口」、「お手洗い」等にアルコール消毒を設置してはいかがでしょうか。

また、アルコール手指消毒を強要のように入口で行っている施設も見受けられますが、「アルコール過敏症」の方もいらっしゃいますので配慮も必要です。



Q

祝辞や友人スピーチで使用する
マイクの使い回しは危険ですか？



A

厚生労働省では「感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、自らの手で周りの物に触れると感染者のウイルスが付きまします。未感染者がその部分に接触すると感染者のウイルスが未感染者の手に付着し、感染者に直接接しなくても感染します。」と提言しています。

マイクは口元で使用することから、使用者の飛沫が付着する可能性が高い物品と言えます。

次の使用者が、前の使用者の飛沫が付着した部分に触れることでウイルスが手に付着し接触感染を起こす可能性が考えられます。

使用の都度に消毒することが可能か、またビデオメッセージなど、マイクを使用しない祝辞やスピーチの仕方を同時に検討されてはいかがでしょうか。

同様に、司会者からのゲストインタビュー形式でのマイクの使いまわし使用を避けることも、感染リストを下げる方法のひとつと考えられま

次のページへ▶